

緑の眩しい季節、牧之原の茶畑の高低差 100m 以上の凹凸を平面にして 6/4 開港する富士山静岡空港、この周辺一帯から榛北は お茶の刈り入れが一段落、田植えが始まり大忙しは続きます。

豚インフルエンザによる新型インフルエンザの感染が広がっておりますが、静岡県では今のところ感染は確認されていないとの報告。5/22 19:30~23:30 志太・榛原救急センターの輪番当番医では、簡易検査で A 型陽性の患者さんが確認され大変でした。5/19 の静岡新聞朝刊一面で「県は十八日、簡易検査で A 型陽性が出たすべての患者の検体で PCR 検査を行う対策に転換した」と報じているのに、県厚生部に連絡したら「この報道が間違いだ」と電話口で言いながら、具体的な指示は皆無。「10 分後この患者さんにどう対応すべきか指示して欲しい」と願い電話を置き、他の患者さんを診察していたら、中部保健所(救急センターは中部保健所の公舎の隣に存在するのだが)の職員が数分後に現れ 経緯を話された。結論は「患者本人の渡航・渡航者との接触がなければ医師が必要と判断した場合のみ PCR 検査を行う」との“説明”。さらに、これとは別のハワイ留学から 5/19 成田に帰国の患者さん、発熱・悪寒が起った後 8 時間程度の為簡易検査で A 型は陰性であった方についても「メキシコ・カナダ・アメリカ本土からの帰国で無ければ、指定医療機関へ搬送の必要無し」「咎め無し」との判断。開業医として志太・榛原救急センターへ出向き、日常インフルエンザの動向にも目を向けながら、ある意味ハラハラしながら、気を使いながら診察していた私は、何かとんでもなく拍子抜けした。

十分な情報が無い状況で、現場の対応を迫られる。患者さんを前にして行政の担当者に状況を話しても、医療従事者に具体的な指示は無く、方針すら示されない状況。不合理・不条理の山積み。それでいて 事を仕損じれば、レトロに・後から見て誤りと判断されれば、あれがこれがと兎や角言われる。状況によっては裁判沙汰。この状況を改善しなければ、医療の現場は成り立たない。最低でも誤報道の後、早急で的確な訂正報道は必要不可欠な行政の義務である。

人口 3 万の吉田町 この町長 田村典彦氏。3 月の牧之原市・吉田町での説明会の後「数カ月後、夕張市以上の財政破綻を招く大問題を秘めた『榛原病院の問題』には沈黙」のまま、具体的に方向性を示す報道は皆無で「黙秘の時間」が経過中。そんな中、町民の血税 2 千万円で「額面 11,000 円の商品券『吉田町プレミアム商品券』を 1 万 8 千セット発行の企画」。これを榛原医師会にも「診療の窓口で扱いを…」と依頼する思慮の無さ。そんな事より「保健医療会議の内容(康寿診報 138 号 P2,3 参照)を含め、住民の医療・健診・介護等の生活に直結する現実を直視して戴けないか」と、榛原医師会 吉田町担当理事として何十回も書面で陳情し、面会の要請してきたが、応じないトップ。呆れるとしか言いようが無い。しかし諦めてもいられない。

J リーグ ジュビロ磐田、5/24 ホームヤマハに 名古屋グランパスを迎え チケット完売 超満員のスタジアム 2:1 と終盤の勝負に勝ちを納め 5 勝 3 分 5 敗。堪える時を経て“底から脱出”が出来たか!? これからの再出発に期待します。このままでは終らない、上位との対戦で本領を発揮し「夏の戦いでは優勝を目指すジュビロ」期待します。

遅くなりましたが、康寿診報 140 号 送らせて頂きます。

敬具

平成 21 年 5 月 25 日

加藤寿夫

ホームページが新しくなりました。<http://www.katoiin.jp> ぜひご覧ください。